様式第1（第15条関係）

会 議 録

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 令和５年度第４回和泉市地域福祉推進協議会 |
| 開催日時 | 令和６年１月１６日（火曜日）午前１０時から正午 |
| 開催場所 | 和泉市役所　本館３階３Ａ・３Ｂ会議室 |
| 出席者（敬称略） | 【委員】桃山学院大学　名誉教授　石田　易司大阪経済法科大学　客員教授　金谷　一郎和泉市社会福祉協議会　会長　佐藤　正浩和泉ボランティア・市民活動センター　アイ・あいロビー運営委員会運営委員長　芦田　三雄和泉市地区保護司会　会長　堀田　德雄和泉市老人クラブ連合会　副会長　赤阪　チヨ子和泉市障がい者団体連絡協議会 会長 藤野　光一市民公募委員　北川　美穂 |
| 議案等 | 「第５次和泉市地域福祉基本計画・第５次和泉市地域福祉活動計画の素案について」 |
| 会議録の作成方法 | □全文記録■要点記録 |
| 記録内容の確認方法 | ■会議の議長の確認を得ている□出席した構成員全員の確認を得ている□その他（　　　　　　） |
| 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等） |
| 事務局石田会長事務局石田会長事務局（副市長）委員全員石田会長事務局石田会長佐藤委員事務局石田会長事務局金谷委員芦田委員石田会長芦田委員石田会長事務局（副市長）金谷委員石田会長堀田委員金谷委員堀田委員芦田委員藤野委員石田会長芦田委員石田会長事務局（副市長）石田会長事務局石田会長事務局（市社協）石田会長芦田委員石田会長事務局（市社協）事務局（副市長）石田会長事務局（副市長）石田会長事務局事務局（副市長）事務局 | 初めに、本日出席の委員は、13名のうち8名、ご出席いただいておりますので、和泉市地域福祉推進協議会規則第7条第2号に基づき、本協議会は成立していることを報告いたします。それではただ今より、令和5年度第4回「和泉市地域福祉推進協議会」を開催いたします。この後は、石田会長に議長を務めていただきます。地域福祉推進協議会議事を進めたいと思います。1つ目の報告ですが、前回の和泉市地域福祉推進協議会の振り返りについてです。資料1をもとにして、説明をいただきたいと思いますので事務局の方よろしくお願いいたします。【資料に沿って説明】【資料1】第3回地域福祉推進協議会振り返り資料今の報告につきまして、何かご意見等ありますでしょうか。冒頭、司会者からもお詫びがありましたように、委員の皆様におかれましては今日いきなり資料を見せられた形です。この資料だけでなく、これから議論させていただくことも含めて、この場で直ちに意見を全て出していただくのは、難しいと思っておりますので、今日を一つのきっかけとして、今後も意見をお寄せいただければと思っております。（意見なし）報告につきましては、特にご意見がないということでご了解いただいたとさせていただきます。では、続きまして本来の議題です。今日の和泉市地域福祉活動計画についての説明をいただいて、ご意見をいただきたいと思います。事務局の方から説明よろしくお願いいたします。【資料に沿って説明】【資料】第4回地域福祉推進協議会の進め方【資料2】第5次和泉市地域福祉基本計画・第5次和泉市地域福祉活動計画素案【未定稿】【資料3】第5次和泉市地域福祉計画・活動計画の特徴についてありがとうございます。今の報告につきまして、何かご意見ありますでしょうか。第4章の中のKPIとかKGIなどが出てきますが、その現状値や目標値について、数字で示すものなのかどうか、具体的に説明をお願いします。基本的に現状値は現在の数字です。目標値は、この計画の期間が5年間になりますので、5年後の目標の数字です。例えば資料2の35ページのこの計画の発信頻度。現在はこの計画の発信ができていないので、現状値はゼロになりますが、これを毎年でも最低1回はやっていくとなれば、目標値1が入ってくるというイメージです。他にはいかがですか。計画にあるKPI、KGIという言葉は理解しにくいので、分からないままで終わってしまう可能性があるのでは。業績目標や成果目標というような書き方が市民に伝わりやすいということであれば、そのような表現に修正したいと思います。KPIやKGIはビジネス用語なので、市民には馴染まないし、まして行政計画には馴染まない。また、業績目標と成果目標というのは違う。元々発想が違う。ここでの目標は、市民がそういう情報をちゃんと把握して安心して暮らせるか、安心してそういう情報があることに満足しているか、いわゆる満足指標が、成果指標です。行政が発信しても、市民は知らない、見てない、もっと市民目線で市民が満足できるような、市民が求めている発信をしないといけないということです。本来の市民満足度が一番大事ではないでしょうか。これが成果目標のはずです。本来の目的に戻って、この情報発信は何の目的だと言うと、発信するだけでなく、市民が本当に情報をきちんと受け止める。そこが大事なので、その手法を作るべきだ。第4次（地域福祉計画）で今年が最終年度。そのときの計画の内容や指標目標がどういうことだったのかもよくわかってない状態で、この第5次（地域福祉基本計画）での業績目標・成果目標は、市民の立場から見たら、自分たちの地域がどうなり、福祉活動としてどうしていくかというのが見えないまま、次々と数字や評価が先走っているような気がします。満足度がどこまでいけば、自分たちは少し豊かに安心に、地域が支えてくれている、公助も考えてくれる、ということが感じられる段階がきちんと見えないと、難しいのではないでしょうか。計画の目標に対してひとつずつ、今年は自分たちがここまで進もう、その次はここまで進もう、というような満足度を確かめて、4年後にはできたというような、自分たちの状況を載せられるような指標になれば、一体感が出てくるなと思います。例えば65ページに横山の例があり市民に配りますが、この校区はこういう形で来年以降やってくれるということを示して、この中のアンケートの結果などを踏まえて、最後にこういう目標で、この目標に対して、自分たちで答えを出したのだから、自分たちが次のステップで、今年1年はこういうことをやろう、これが成果目標の方向性になるのかなと思います。今回は横山だけが例ですが、全小学校区の分を入れますよね。だから、自分の地域の実態は、これを見たらすごくよくわかるだろうと思います。市民の納得という意味では、こういう資料がすごく大事だと思います。各校区で次の指標目標や成果目標を決めていく。それを校区ごとで1年ごとに検討していくというか、最終目標をこれにしよう、5年後にはこうしたいと校区の中で考えてもらう。そういう仕組みがあれば、自分たちの目線でやっていけることになるのでは。それが役員だけじゃなくて全住民が理解するというところが一番大事かなと思う。例えば資料2の65ページでは、これは全校区あるということを前提にして、今の実態の数としては10や20という数字が出ていますが、5年後、これを私達はどれくらいにしたいかというのが出てきたらいいということですね。これを住民の立場を抜きにして、行政の立場でいくらにしろという書き方よりも、この表だけ作っておいて令和6年度には今は10個だが、令和7年度は空欄にしておいて、そこ住民同士でお話いただいて数字を入れていっていただくような。このことについて、ご意見いただけたら嬉しいですが、実務的には可能なのでしょうか。まず、各地域にどういう校区のアクションプランを配布するかというのは、各校区で考えていただければと考えております。今日は各校区のアクションプランを一体化した計画の中にどう載せ込むかということに絞って、ご議論をいただければと思っておりまして、この内容がこのまま校区で配られるわけではないです。そして、KPI、KGIのご指摘と、校区のアクションプランの書きぶりの問題ですが、しっかり議論しないと、皆様が理想にしておられるような計画というのは、出来上がらないだろうなと思っています。そのため、この計画を毎年この協議会、あるいは委員会の場で議論いただいて、毎年修正していく形に変えたいと思っています。今年の3月末の時点では、議論が未了の部分もあるかと思いますが、現時点でどこまで入れ込むか、その上で、来年度、再来年と、これをどう修正していくかという視点もあわせていけばというように考えております。現時点での校区のアクションプランに、特に数値目標を設定した目標値を入れるというのは難しいので、こういうことをやっていきますくらいになるかと思っています。ただ、最終的には、何年までにここまで持っていこう、この形にしていこうというのは、アクションプランであるので、入れるべきだと思います。だから、今年度末は、市行政と市社協の活動については、何らかの目標値を入れるような形で、提案している状況でございます。先ほどの横山のアクションプラン66ページの中で、重点取り組み②目標の「・」の一つ目、隣近所の付き合いを大切にして顔の見える関係を継続する。これは災害でも、前回の子育ての問題でも、障がい者の問題でも、高齢者の問題でもそうです。特に一人暮らしの高齢者の方が、安心するためにはこういうご近所づきあいが大事です。77ページには、ご近所づきあいの、調査結果があります。和泉市全体であれば、会えば親しく話をしたり、仲の良い人がよく来てくれるとか、49%がそういうご近所づきあいがありますと回答されています。これを和泉市全体で例えば60％に、65％にするとか、少なくとも10%を伸ばしましょうとか、まさにそういう目標を立てたらどうでしょうか。そのためには、防災訓練をしたり、いろんな会合をしたり、居場所作りや、協議の場など、いろいろな場をつくらないといけない。その中で何回するのかというのは、もちろん横山では何回するかという目標があるから、いわゆる業績目標と成果目標がそういうものになります。ただ、言いたいのは、市全体としては、現行49%を、例えば60％にするのはいいが、横山ではそういうコミュニケーションをしている割合がもともと高いとなれば、現状の59%を69%に持っていきますとか、70%、80％に持っていきたいというのを、地域の役員さんで、協議の場とか校区社協で議論いただいて、その地域の特性に合った目標を設定してもらったらいいと思います。向上するという目標を作れば、横山で住んでいる方や、校区社協も頑張ってくれているので、自分も少し協力しよう、そういった考えが自助に繋がるので、そういうことが大事じゃないでしょうか。アンケート調査なども踏まえて、現状を認識して、目標値をどうするかということは、市全体と各々の地域で違うのはいいと思います。市としてはこうですが、各々の地域ではこういう目標を作ってくださいと。今後市社協中心で校区のアクションプランを議論いただいたらいいのではないでしょうか。目標値をもっとわかりやすく表現すれば、満足度や、決意表明も含めて、非常にわかりやすいのではないでしょうか。特にこのご近所付き合い、町会・自治会の会員数も下がってくる中、役員や校区社協もなかなかなり手を探すのが大変です。これを解決するのがご近所づきあいではないかと思っています。行政は、ご近所づきあいが広まっていった方がいい、でも市民感覚は必ずしもそうでないという矛盾がある。例えば、刑務所から出所した方に対して、近所みんなが知っていていることが望ましい形なのか、そっとしておいて欲しいという方がいいのかっていうと、どうお考えですか。難しい話ですね。罪を犯すと、一般社会の壁はものすごく高いです。矯正施設や刑務所等の壁よりも、一般社会の壁の方がより高い。刑務所から出所した方も人も住みやすいまちにしましょうという、一方で、みんなが顔なじみになろうというキャッチフレーズは、矛盾が起こります。我々は、罪を犯した方と毎月２回面接して支援をしています。だから、その方の出自から、その罪を起こしたときまでの経緯も全部わかります。それは、すごい生活環境もあり、それを一般の方々に理解してもらうのはなかなか難しい話です。保護司を辞めていく人のほとんどの方は、やっていてよかった、こういう世界があるということを知れて、自分の成長に繋がったというような話をされます私も保護司の方々の活動はわかっています。どこまで個人情報を出すかなどの話ではなく、偏見についての話です。僕が関わった事例ですが、外国籍の方が増えた地域については、皆さん不安だと、これも外国籍の方が犯罪多いとか、治安が悪くなっているという偏見があるからです。そうではないことをきっちりと啓発して、人権問題として取り上げて、噂だけや色眼鏡で見ずにご近所づきあいをする。これは行政的に、石田会長がおっしゃっている通り微妙なところもあります。たしかに、100%の近所づきあいは要らないと思うけど、現在よりは向上しようというのは大事だと思う。日頃から偏見をなくして、お互いに安心安全なまちづくりのためには必要かなと思います。個人の選択で近所づきあいをしないというのはもちろんあるとは思うので、それをこうしなさいというのはおかしいですが、地域でそういう議論をしてもらうことは非常に大事かなと思います。我々が個人的に支援するのは限界があり、法務省が力を入れているのは、更生保護法についての啓発活動です。それが一番大事だと。今そういう方向に向いているということでございます。社会を明るくする運動がそれです。和泉市障がい者団体連絡協議会の藤野さんに、地域の中における障がい者との関わり方で、言葉では障がい者の方とのこういう関わり合いができるとか言えますが、実際に地域との関係をどういう形で持てばいいのか、そこの部分をお聞きしたいです。その辺りが目標になると感じます。この計画の中で、公助が共助を支える、共助が共助を支えるという言葉がありましたが、たくさんの団体がある中、各団体は同じ地区で活動していても、団体同士の繋がりは全然感じられないというのが実感です。視覚障がい者協会でも小学校を対象に、啓発活動を行っていますが、小学生が視覚障がい者の話を聞いたら、信号で「おっちゃん、信号赤やで、渡ったらあかんで」というような関わりがあれば子どもとの繋がりもできるけれども、そういう各団体の繋がりが全くない。こうやって計画を立てても現場にそれが下りていかない。共助が共助を支える前に、その共助同士のその繋がり、事業所や作業所同士の繋がりを持っていかないといけない。情報発信の仕方も、福祉総務課だけでなく、市で取り組むのであれば、教育委員会も含めた上で、公助が共助、共助が共助を支えるという繋がりが私は大事じゃないかなと思います。障がい者で言えば、先ほど、保護司の方がおっしゃったように、精神障がいを持っている方の親御さんは、自分の子どもが人前にでるのが心配、家に帰ってくるまで心配、あまり知られたくない方も、やはりおられます。実際に付き合う、理解するとそんなことはないですが、偏見というのは未だにとても多いです。視覚障がい者であっても、白杖をつくのは、障がい者とみられるのから嫌だという方もおられます。障がい者に関しても、もっと大きく啓発活動をやっていく必要があるのではと思います。だから、活動目標もありますが、まず、計画段階でここにいる委員同士の横の繋がり、校区やブロックなどのつながり、連絡を密にもっとした方がいいのではと思いました。ありがとうございます。日常的には今、藤野さんがおっしゃっていただいたように、一つの関係性をそんな深く求めなくても成り立つと考える人が、どんどん多くなってきている。しかし、今回の能登地震のように災害時は物理的に移動できないので、近所の人と一緒になって協力しないといけない。その考え方の違いを明確にしていかないと、常に地域の人に自分をさらけ出して地域の人と仲良くしましょうというのは、住民を受け入れられない計画になるのではという感じがする。災害などがおきていないときは、みんな気の合った人とは近所付き合いをするけども、近所の人全員と触れ合う必要ないと思っている人が、どんどん増えてきているのが現状ではないかという気がします。だから、例えば横山地区では、高齢で買い物を1人では無理、みんなで行こうという必要性が出てきたときには考えるが、日常的には自分だけで暮らしていけると思っている人はたくさんいると思います。だから、単に数字で親密度を何%から何%まで上げましょうというのは、何か市民の共感を得にくいのではと思います。ただ、個別の例を挙げてもキリがないので、市全体の目標として一定の数値は出さないといけないなとも思います。市の目標、それから市社協の目標、これはしっかりと全体を見据えて目標値を定める必要があります。これを達成するのに、1年後はどうするのか議論をすることが協議の場を開く必要性の大きなポイントになります。そのことを話し合う場を作ろうとしていますが、必要性がはっきりしなければ、何をするのか、地域の中ではどんな団体があるのか、障がい者の方や認知症の方がどれだけいるのか、その人たちとの関わりをどうするかということが考えられない。1年ごとでステップアップと考えたら、協議の場の意味合いと、そこに集まる必要性が出てくる。話し合う場を作ることだけの問題ではなく、必要性を見いだしてあげたら、そこに集まることができるかなと思います。目標は市全体でこういう数字出てきても、やはりもう一言、それぞれの地域の状況、障がいをお持ちの方であればその人の個別の状況を考えながら、どう必要な人間関係を作っていくかなどを書いていただけたらと思います。さまざまな市民がいるので、一括してみんな仲良くしましょうというのは難しいと感じていると思うので、じわじわとでも個別に活かせるような議論を広げていけたらいいかなと思ったりします。第5番目の柱に、関係機関、関係者同士の「連携」という言葉を入れる案がありました。しかし、連携以前の問題として、こうした議論をオフィシャルにした経験が、和泉市はあまりなかったと思っています。第5の柱は、連携以前の問題としてこういうことをみんなで議論していきましょうよ、住民の意識も、職員の意識も変えていきましょう、議論の場を作っていきましょうという、基本目標の設定に変えました。今までは、地域福祉は公助が中心でした。役所は次になにをするのかという計画のオンパレードでしたが、まずこの5年間は、その意識を変えるという目標、目的意識を持って、第5の柱をこのような表現にさせていただいております。それが私達の言う地域福祉改革だと思っていまして、来年度は公助中心からみんなで作っていく地域福祉改革していこうという、元年として位置づけられないかなと思っています。これから和泉市の地域福祉計画はどんどん変えていかないといけないと思っていますので、そのことは今回の計画に明記していきたい。校区の目標は、校区で議論して、市全体の目標と調和させていくような形で作っていかなければいけないということは、今回の計画には入れ込ませていただきます。ただ、目標値を今回の計画に入れるのは少し難しいので、これから１年間議論させていただいて、来年度の修正のときには、皆様が現時点で想像しておられるような形で、この計画を変えていければと考えます。以上です。素案の32ページの目標5について、今お話しいただいたわけですね。補足ですが、素案の57ページの組織改革であるとか、そういったところがこの中に入っているイメージです。前回の計画との関連で言えば、地域福祉計画は市の計画で、活動計画は社協の計画だと我々は理解していましたが、今回一本化するということで、和泉市と社協が一緒にというのは、すごくいいことだと思いますが、一方で市と社協の関係を考えると、市の力が強すぎて社協の主体性がなくならないか心配しています。三井さん、その辺はきちんと納得していますか。市民さんにとってわかりやすいのはどちらかということを考えると、市と一緒の方がわかりやすいかなというところです。活動の中で、社協の存在意義、市民さんへのサポートができればいいと思います。活動の内容は、この計画の中に入っているので、市から言われたことを社協がそのままやるというわけではないです。活動をしている記載はすこし少ないのかもしれませんが、計画のあとの活動で市社協の存在を十分に示せられるのかなと思っています。多くの市民が、社協は市の中の一部分だと思っている人がすごく多いです。その認識についてはどうなのかとは思いますので、社協の主体性を、どこかできちんと主張するようなことをぜひお願いしたいと思います。表紙のレイアウトで「第５次和泉市地域福祉基本計画・活動計画」という形にしたら、一体感も感じるし、下段も「和泉市」を、「和泉市・社会福祉協議会」にするほうが、思いと一致するような表現かと思いました。そこも次回にはみんなが納得できる形にしていただければと思います。これとは別に、社協はさっきの65ページの横山校区の例のような、校区ごとでこんなふうにしましょうというのは、それは社協の方で出されるということでよろしいでしょうか。社協としては、あえて今回はこれが社協のこの5年間の計画ですというのはもう出さないということでしょうか。社協としては、住民さんたちにもう少し砕いた形で、地域福祉基本計画、地域福祉活動計画、そして校区の計画、すべてが繋がっているということをお分かりいただけるようにしたいと思っています。そこで、地域作りを地域の皆さんとやっていきたいですという旨で概要版を発行したいと考えています。校区のアクションプランの伝え方について校区社協会長さんたちとご相談しながら、概要版にその校区が作成した１枚もののアクションプランをつけて発行したいと思っています。概要版の原案については、市でも内容を確認いただきながら作成できればと思っています。市でこういう計画を作ったときには、概要版を作ります。例えば各校区がアレンジをして、やっていただくというのも全然かまいません。ただ同じ事を書いているのに、団体によって別々の内容というのは具合が悪いので、調整が必要と思います。階元課長の提案がありましたけれども、そこは市社協として、しっかり市と調整したうえで、どんなものを作っていくか、何を加えていくかということを決めていく仕組みが充実してくれば、より良い体制になるかと思います。ぜひ協力していただいて、共通といいますか、お互いに行き来できるような内容のものを作っていただくことがね、市民にとっては一番いいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。さっき一番初めに副市長に言っていただいたように、市長の挨拶の中でも、計画はもう5年間固定ではなく、毎年検討して変えていくという内容を、市長の言葉で入れていただくことが、とても嬉しいなと思います。それもぜひよろしくお願いします。先日この挨拶の件で、市長とも議論しましたので、どういうコメントがあったか後ほどご披露させていただきます。佐藤会長にも後日、この議論を踏まえてしていただいて、合同でこれを言いたいということをご相談させて下さい。たくさんご意見いただいて、他には特にご意見ないようですので、今日はここまでにさせていただければと思います。石田会長ありがとうございました。それでは最後に吉田副市長より、終わりのご挨拶をお願いしたいと思います。再犯防止と成年後見の入れ込み方についてずいぶん悩みました。再犯防止と成年後見制度の計画が、非常にきちんとできていて、膨大なものになってしまうので、これをこの計画の途中に入れてしまうと、何の計画かちょっとわからなくなってしまうので、具体的に取り組むことを中心に、計画の方には入れ込みました。その他、条文とか考え方は、巻末に添付をする形で対応しました。成年後見制度についてもそうです。再犯防止計画では、保護司会の取り組みが一つしか載ってないので計画にも一つしか載っていません。しかし、保護司会の観点で見たときには、いろんな福祉活動をやっていただいていており、堀田会長のおっしゃっていた本丸の再犯防止活動もありますが、例えば、青少年の薬物講習を学校でやっていただいたとか、学校代表との懇話会も保護司会はやっています。そういう活動が、ここに記載されていないので、記載方法は工夫する必要があると思いました。市社協の共助の計画についても、議論があると思っておりますので、今日の検討を活かして、今年度末とは言わず、来年度、再来年度と、いい計画に変えていきたいと思っていますので、引き続き、ご協力をお願い申し上げまして、本日は終わりとさせていただきます。ありがとうございました。最後になりますが、市長のインタビューの内容を披露させていただきます。今回の計画のポイントを説明させていただいた上で、市長として、和泉市の福祉のビジョンをお聴かせいただいております。主としては、子どもだけでなく、これから増え続けていく高齢者への対応をどうするか。高齢者が住み続けたい、暮らしやすいと、加えて毎日わくわくと、楽しんで暮らせるような街にしていきたい。定年になって、収入も変わりますが、生活に不安になるのではなく、毎日楽しく長生きして和泉市で住み続けたいなと思えるような街にしていきたいということで、メッセージをいただいております。また、今回のアンケート調査で、市民が和泉市で便利だと思うポイントに、医療機関の利便性が上がっており、医療と介護の連携を、これから強めていきたい。加えて、人材育成、これは子どもの教育の部分でも関わりますが、エンパワーメントといいますか、その人が持っている生きる力であるとか、夢見る力を伸ばしていけるような環境整備をやっていきたいということでメッセージの方をいただいております。以上です。 |